

道路標識の新設・廃止・変更等の事務手続きマニュアル

平成２９年５月改訂版

名古屋市緑政土木局 路政部道路維持課

はじめに

本マニュアルは、各土木事務所が管理する道路施設（道路照明、道路標識、道路反射鏡、横断歩道橋、のり面、擁壁、カルバート、道路情報提供装置）に関して、工事・点検等に関わる全ての方々、すなわち各事業者並びに本庁・土木事務所の職員を対象とするものです。

平成26年度から電子台帳化された現在の台帳管理システムは、台帳管理を一元化し、道路施設管理に大いに活用していくものとしてスタートしましたが、その後の法定点検の制度化に対応するために、この度、マニュアルの改訂を行うこととなりました。

台帳管理にあたっては、各事業者は設置・修繕工事、各点検業務委託、事故復旧・承認工事、単価契約工事等の作業完了後に、また整理組合や開発行為等の引継時に土木事務所に電子台帳の補正データを提出します。

土木事務所は提出された補正データや市職員の直営作業によるデータの内容を確認後、それらを道路維持課に提出することで電子台帳が補正されます。併せて、同様の流れで補正データに関連する各種調書、詳細な点検結果や写真データも電子データとして道路維持課に提出します。

道路維持課では、補正された電子台帳を基に維持管理支援システムにデータを反映させ、関連する電子データを一元的に保管し、台帳管理を行います。

台帳管理は、あくまでも日々の各土木事務所で取り扱う道路施設1基1基の管理がベースにあり、それらが道路維持課へ提出されることで成り立っています。本マニュアルは台帳管理の事務処理手続きを円滑に行うために、各事業者並びに本庁・土木事務所の職員が実施する各ケースの補正手続きについてとりまとめましたので、事務処理の参考に活用していただきたいと思います。



「言葉の定義」

1. 「道路施設」とは : 各土木事務所が管理する道路照明、道路標識、道路反射鏡、横断歩道橋、のり面、擁壁、カルバート、道路情報提供装置のこと。
2. 「新設」とは※¹ : 道路管理者が発注する工事により、既存の道路施設が無い所に、新しく道路施設を設置すること。
3. 「引継」とは※¹ : 整理組合や開発行為等により、新しく道路施設を設置し、それを道路管理者が引継ぐこと。
4. 「更新」とは※¹、※⁴ : 既存の道路施設を“全て撤去”した後に、同じ箇所に新しくそれと同等の道路施設を設置すること。並行して“撤去”に係る「廃止」も忘れずに行う。
5. 「廃止」とは※²、※⁴ : 既存の道路施設を“全て撤去”すること。
6. 「変更（修繕）」とは※³ : 既存の道路施設の一部を取り替えたり、補修・修繕すること。
7. 「変更（移設）」とは※³ : 既存の道路施設本体を、そのまま異なる箇所に移して設置すること。
8. 「変更（錯誤）」とは※³ : 既存の道路施設と電子台帳の内容に相違（設置箇所の間違い、各種記録の間違い等）が発見された場合に電子台帳を修正すること。
9. 「変更（点検）」とは※³ : 既存の道路施設の点検を実施し、その結果を電子台帳に記録すること。

【備考】

- ※¹ 上記 2. ～ 4. は固有 I D を道路維持課にて付与します。
- ※² 上記 5. では固有 I D を廃止し、今後の使用も禁止します。
- ※³ 上記 6. ～ 9. は既存の固有 I D に対して、データ内容の変更をします。
- ※⁴ 上記 4. 「更新」に際しては、5. 「廃止」を並行して実施します。

1. 補正区分毎の補正データの提出について

標識形式により、表－1、表－2を参考に必要なシステム補正資料を土木事務所担当者（監督員）へ提出して下さい。土木事務所担当者は、内容を確認の上、道路維持課担当者へ提出して下さい。

提出データのファイル名、ファイル形式、まとめ方はP.12～13を参照してください。

表－1 門型、F型等の大型案内標識、特殊な形式の標識類の提出資料

補正区分		エクセル 台帳	道路標識 調書※1	点検・措置 記録表※1	竣工図 (構造図)	全景写真 (表裏)	位置図
新設・引継・更新		○	○	△※2	○	○	△※5
廃止		○	－	－	－	－	－
変更	修繕	○	○	○	△※3	△※4	△※5
	移設	○	○	－	－	○	△※5
	錯誤	○	○	－	－	△※4	△※5
	点検	○	－	○	－	－	－

表－2 上記以外の標識類(路側式の規制、警戒標識、主要地点名標識等)の提出資料

補正区分		エクセル 台帳	道路標識 調書※1	点検・措置 記録表※1	竣工図 (構造図)	全景写真	位置図
新設・引継・更新		○	○	－	－	－	△※5
廃止		○	－	－	－	－	－
変更	修繕	○	○	△※6	－	－	△※5
	移設	○	○	－	－	－	△※5
	錯誤	○	○	－	－	－	△※5
	点検	○	－	△※6	－	－	－

※1 道路標識調書及び点検・措置記録表の様式(例)は、P.16～17を参照。

提出様式については、設計図書または土木事務所担当(監督員)の指示による。

※2 引継の場合で土木事務所担当者(監督員)から指示がある場合については提出。

※3 構造の変更を伴う修繕の場合については提出。

※4 修繕で表示内容の変更をした場合、全景写真に錯誤がある場合については提出。

※5 道路標識調書に記載があれば提出不要。

※6 契約図書等に定めがある場合、土木事務所担当者(監督員)から指示がある場合については提出。

2. エクセル台帳

エクセル台帳とは、諸元データをはじめ、位置（座標）データ、修繕データ、点検データなどがリスト項目となったエクセルで作成した電子台帳ファイルです。

エクセル台帳には、必須入力項目と補正するデータ項目のみを入力して土木事務所担当者（監督員）に提出します。（すべての項目を入力する必要はありません）

※補正区分によって記載する項目が異なりますので、P. 14～15 を参照してください。

3. エクセル台帳の記入方法

A欄：補正区分

「新設」、「引継」、「更新」、「修繕」、「廃止」、「移設」、「錯誤」、「点検」のうち、該当するものを選択する。※標識板のみの更新は「修繕」、支柱の更新を含む場合は、「廃止」（既存標識の撤去）＋「更新」（標識の新設）として補正データの提出が必要となります。

B欄：年月日

補正区分ごとに、表－3を参考に記入すべき日付を西暦で記入する。記入すべき日付が不明な場合は、契約工期（業務期間）がある場合は完了日、無い場合はエクセル台帳を提出した日付を記入する。

例）○2014/4/1 ×平成 26 年 4 月 1 日 ×20140401 ×260401 ×2014. 4. 1 ×H26. 4. 1

表－3 補正区分毎の記入すべき日付

補正区分	記入すべき日付
「新設」	道路標識の設置工事が完了した日付(P 欄と同じ日付)
「引継」	道路標識の引継を受けた日付
「更新」	道路標識の更新工事が完了した日付(P 欄と同じ日付)
「修繕」	道路標識の修繕工事が完了した日付(AX 欄と同じ日付)
「廃止」	道路標識の撤去工事が完了した日付
「移設」	道路標識の移設工事が完了した日付
「錯誤」	道路標識の錯誤が判明した日付
「点検」	道路標識の点検が完了した日付(AS 欄と同じ日付)

C欄：固有 I D

固有 I D 「標識（サイン）の S(半角)＋2桁の区番号＋5桁の番号」を記入する。

例）S0100001 →千種区の 00001 番の標識と判別する。

D欄：土木事務所

土木事務所名を選択する。

E欄：管理番号

道路標識調書に記載の管理番号を記入する。標識柱 1 基に複数枚の標識があり、枝番など複数の管理番号を付して管理している場合は全て記入する。

※半角の、(コンマ) で区切って記入する。

例) 1001-1, 1001-2, 1001-3, 2001 等

F 欄：全景写真

全景写真が有れば「有」、無ければ「無」を選択する。

G 欄：標識種類 1

「案内標識（大型）」、「案内標識（著名地点）」、「案内標識（主要地点）」、「案内標識（小型）」、「規制標識」、「警戒標識」、「歩行者系サイン」、「みちしるべ」、「駐車場案内」、「その他管理する標識」のうち、該当するものを選択する。

H 欄：標識番号 1

あらかじめ G 欄“標識種類 1”を選択した後、道路標識令に定める番号を選択する。

ただし、道路標識令に定めのない歩行者系サイン、みちしるべ及び美装化柱等については、次の中から該当するものを選択する。

「地区誘導サイン」、「地域案内サイン」、「みちしるべ」、「ブロック案内板」、「詳細案内板」、「個別案内板」、「補助案内板」、「コミュニティゾーン」、「ユニバーサルゾーン」、「広域避難場所」、「美装化柱」、「補助標識」、「その他」

なお、「その他」を選択した場合は、BM～BO 欄の備考 1～3 に内容を記入する。

I 欄：標識板の枚数 1

G 欄で選択した標識種類の標識板の枚数を選択する。

J 欄：標識種類 2

G 欄で選択した標識種類と異なる標識種類がある場合、G 欄にならって該当するものを選択する。

K 欄：標識番号 2

J 欄を記入した場合、H 欄にならって該当するものを選択する。ただし、あらかじめ J 欄“標識種類 2”を選択する。

L 欄：標識板の枚数 2

J 欄で選択した標識種類の標識板の枚数を選択する。

M 欄：標識種類 3

G 欄、J 欄で選択した標識種類と異なる標識がある場合、G 欄にならって該当するものを選択する。

N 欄：標識番号 3

M 欄を記入した場合、H 欄にならって該当するものを選択する。ただし、あらかじめ M 欄“標識種類 3”を選択する。

O 欄：標識板の枚数 3

M 欄で選択した標識種類の標識板の枚数を選択する。

P 欄：設置年月日

設置年月日を西暦で記入する。不明の場合は、空欄とする。

例) ○2014/4/1 ×平成 26 年 4 月 1 日 ×20140401 ×260401 ×2014. 4. 1 ×H26. 4. 1

Q欄：設置者

設置者が道路管理者の場合は「道路管理者」、その他の場合は「その他」を選択する。

R欄：設置方式

「単独」、「添架」のうち、該当するものを選択する。

※「単独」とは、単独の支柱で設置されているものをいう。

※「添架」とは、本市管理の道路標識以外に設置されているものをいう。

※本市管理の道路標識の支柱またはアーム等に設置されているものは、原則として、J～O欄を利用して記入する。

S欄：設置形式

本欄を選択する場合は、あらかじめR欄“設置方式”を選択する。

「単柱」、「複柱」、「オーバーハング」、「オーバーヘッド」のうち、該当するものを選択する。R欄で、「添架」を選択した標識は、「支柱なし」を選択する。

※「単柱」とは、標識が1本の支柱のみで支えられている形式をいう。

※「複柱」とは、標識が2本の支柱のみで支えられている形式をいう。

※「オーバーハング」とは、片持ち式（F－1型、F－2型等）をいう。

※「オーバーヘッド」とは、門型形式（トラス型、アーチ型）をいう。

T欄：添架対象

R欄で「添架」を選択した場合は、信号柱、道路照明等の添架対象施設を記入する。本市管理の道路照明など固有IDを有しているものは、固有IDを記入する。ここで、本マニュアルが意味する“固有ID”とは、本市が管理する次の構造物に付与されたものとし、その例を表－4に示す。

例) 信号柱, 中電柱, L0100001（道路照明の場合）等

表－4 固有IDの例

構造物	固有IDの例
道路標識	S0201234
道路照明	L0505678
道路反射鏡	m080321
歩道橋	H1102
道路情報提供装置	D1402345
カルバート	C0102002
のり面・擁壁	N1602525

U欄：道路種別

「高速自動車道」、「一般国道（指定区間）」、「一般国道（指定区間外）」、「主要県道」、「一般県道」、「主要市道」、「一般市道（1級）」、「一般市道（2級）」、「一般市道（その他）」、「自転車歩行者専用道」、「未認定道路（公有道路）」、「その他」のうち該当するものから選択する。交差点等で複数路線にまたがる場合は上位路線を選択する。

V欄：路線名

認定路線名を記入する。認定されていない路線の場合は「未認定」と記入する。

W欄：道路番号

道路番号を記入する。(認定道路の場合)

X欄：幅員

設置位置での道路の幅員(m)を小数点第一位まで記入する。(数値のみ)

例) 12.0

Y欄：緊急輸送道路

緊急輸送道路の区分に応じて、「1次」、「2次」、「指定なし」のうち該当するものから選択する。

Z欄：設置場所

設置場所を〇〇区町名まで記入する。

AA欄：設置位置

本欄を選択する場合は、あらかじめS欄“設置形式”を選択する。

S欄で「オーバーヘッド」を選択した場合は、標識支柱の設置位置について、「歩道・中央帯」、「歩道・歩道」のうち、該当するものを選択する。S欄で「支柱なし」を選択した場合は「－」を選択する。それ以外の場合は、「路肩」、「歩道」、「中央帯」のうち、該当するものを選択する。

AB欄：路面からのクリアランス

道路面から標識板下端までのクリアランス(m)を小数点第一位まで記入する。(数値のみ)

例) 5.0

AC欄：標識寸法

G欄からO欄の標識種類の順に、標識板の高さH(m)×幅W(m)または直径φ(m)を小数点第一位まで記入する。

※複数の標識種類がある場合は、半角の、(コンマ)で区切って記入する。

例) H2.7m×W3.5m, H0.5m×W1.4m, φ0.6m

AD欄：文字高さ

G欄からO欄の標識種類の順に、文字の高さ(cm)を記入する。

※複数の標識種類がある場合は、半角の、(コンマ)で区切って記入する。

例) 漢字 30cm ローマ字 15cm, 漢字 20cm ローマ字 10cm

AE欄：英語表記

英語表記が有れば「有」、無ければ「無」を選択する。

AF欄：拡大率

標識板の拡大率を記入する。(数値のみ)

例) 1.0

AG欄：板の材質

標識板の材質を記入する。

例) アルミニウム、ステンレス、スチール 等

AH欄：反射シート

「反射シート」欄には、次の中から該当するものを記入する。

○カプセルレンズ型

- 封入レンズ型
- 広角プリズムレンズ型
- スコッチカルフィルム……………①
- 焼付塗装(シルクスクリーン印刷+クロマリン印刷) ……………②
- フッ素フィルム(シルクスクリーン印刷+グラフィック印刷) ……………③
- スコッチカルフィルム+エッチング……………④
- ※①はみちしるべに、②③④は歩行者系サインに使用
- ※文字と地でシートが異なる場合はそれぞれ記載する。
- その他

A I 欄：基礎形式

「埋込型」、「ベースプレート型」、「添架型」、「その他」のうち、該当するものを選択する。

A J 欄：基礎寸法

基礎寸法(mm)を記入する。

例) 1000mm×1000mm×2500mm

A K 欄：支柱形式

本欄を選択する場合は、あらかじめR欄“設置方式”を選択する。

「トラス型門柱」、「アーチ型門柱」、「F－1型」、「F－2型」、「吊下型」、「T（Y）型」、「単柱型」、「複柱型」、「美装化柱」、「支柱なし」、「その他」のうち、該当するものを選択する。※R欄で、「添架」を選択した標識は、「支柱なし」を選択する。

A L 欄：支柱寸法

支柱寸法(mm)を記入する。

例) $\phi 355.6\text{mm} \times t7.9\text{mm} \times L7625\text{mm}$

AM欄：支柱の材質

支柱の材質を記入する。

例) 一般構造用炭素鋼鋼管、ステンレス鋼 等

AN欄：支柱の表面処理

支柱の表面処理（塗装仕様、溶融亜鉛めっき）を記入する。

例) 溶融亜鉛めっき(HDZ45)、塗装(フッ素樹脂系塗料)、溶融亜鉛めっき(HDZ45)+塗装(フッ素樹脂系塗料) 等

AO欄：緯度

支柱の位置で計測し、支柱が道路の両側にある場合は、いずれかの支柱の位置で計測して、世界測地系のDMS形式($dd^{\circ} mm' ss.s''$)で、「0.1秒」単位まで記入する。

支柱の位置で計測する。(0.1秒で約3mのズレが生じます)

例) $\circ 35^{\circ} 10' 48.8'' \times 35 \text{度} 10 \text{分} 48.8 \text{秒} \times 35.10488 \times \text{日本測地系}$

AP欄：経度

支柱の位置で計測し、支柱が道路の両側にある場合は、いずれかの支柱の位置で計測して、世界測地系のDMS形式($dd^{\circ} mm' ss.s''$)で、「0.1秒」単位まで記入する。

支柱の位置で計測する。(0.1秒で約3mのズレが生じます)

例) $\circ 136^{\circ} 57' 21.4'' \times 136 \text{度} 57 \text{分} 21.4 \text{秒} \times 136.57214 \times \text{日本測地系}$

※一般的なYahoo地図やGoogleマップ等を使用して緯度・経度を得ようとする場合は、座標値が世界測地系 WGS84 形式（例 35.221717, 136.902968）となるため、A O 欄“緯度”、A P 欄“経度”の記入にあたっては座標値を世界測地系 DMS 形式（例 35° 13' 18.2" , 136° 54' 10.7"）へ変換する必要があります。本市職員は維持管理支援システムから直接 DMS 形式の座標値を得ることが可能です。

A Q 欄：地際部種別

「土砂」、「C o」、「A s」、「I L B」、「露出」、「その他」のうち、該当するものを選択する。

※露出とは、ベースプレートが路面に露出している場合をいう。

A R 欄：占用物件

占用物件がある場合は、占用物件をすべて記入する。

例）車両用信号機, 歩行者用信号機, 警察管理の規制標識 等

A S 欄：点検年月日

点検の実施年月日を西暦で記入する。

点検・措置記録表（P. 15 を参照）を作成した場合は、点検・措置記録表に記載した点検の実施年月日を西暦で記入する。

例）○2014/4/1 ×平成 26 年 4 月 1 日 ×20140401 ×260401 ×2014. 4. 1 ×H26. 4. 1

A T 欄：点検種別

点検種別について表－5 に従い該当するものを選択する。

表－5 点検種別の例

点検種別	定 義
定期点検	5年や10年毎に定期的に行う点検
通常点検	道路パトロール等で行う点検
初期点検	設置後1年以内に行う点検
緊急点検	緊急に行う点検
詳細点検	定期点検等により異常が見つかり、さらに詳細な点検を実施する必要がある場合に行う点検

A U 欄：点検要領

点検に使用した要領等を記入する。

例）附属物（標識、照明施設等）点検要領

（平成 26 年 6 月 国土交通省道路局国道・防災課） 等

A V 欄：業務件名

点検業務等の件名を記入する。本市職員による点検の場合は「直営業務」と記入する。

A W 欄：点検者名

点検業務の受注者名を記入する。本市職員による点検の場合は「職員」と記入する。

A X 欄：修繕年月日

措置の実施年月日を西暦で記入する。

点検・措置記録表（P. 15 を参照）を作成した場合は、点検・措置記録表に記載した措置の実施年月日を西暦で記入する。

例) ○2014/4/1 ×平成 26 年 4 月 1 日 ×20140401 ×260401 ×2014. 4. 1 ×H26. 4. 1

A Y 欄：修繕内容

修繕内容を記入する。複数ある場合には半角の、（コンマ）で区切って記入する。

例) 塗装, ボルト交換, 標識板取替 等

A Z 欄：塗装面積

塗装面積(m²)を整数まるめで記入する。(数値のみ)

B A 欄：塗装色

塗装色を塗料用標準色見本帳（日本塗料工業会）による分類を半角英数字で記入する。

例) HN70、H07-30F 等

B B 欄：貼紙防止塗装面積

貼紙防止塗装面積(m²)を整数まるめで記入する。(数値のみ)

B C 欄：工事費

新設、引継、更新の場合は新設に要した工事費（千円）、修繕、移設の場合は、塗装等の修繕に要した工事費（千円）を千円まるめで記入する。複数の道路標識の新設、修繕等を行った工事については、当該標識の工事費を記入する。(数値のみ)

B D 欄：工事件名

管理者発注工事の場合は、設置工事又は修繕工事等の件名を記入し、本市職員が実施した工事の場合は「直営工事」、管理者工事以外の場合は「承認工事」、「占用工事」、「区画整理」、「開発行為」「その他」（寄附等）のうち、該当するものを記入する。

B E 欄：施工者名

設置工事、修繕工事等の受注者名を記入する。B D 欄で「直営工事」と記入の場合は「職員」と記入する。

B F 欄：健全度区分

点検又は修繕等に基づいた健全度区分を表－6 に従い該当するものを選択する。

表－6 健全度区分と定義

健全度区分	定 義
I 健全	構造物の機能に支障が生じていない状態
II 予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防の観点から措置を講ずることが望ましい状態
III 早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
IV 緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

参考資料:トンネル等の健全性の診断結果の分類に関する告示

(平成26年国土交通省告示第426号)

B G～B K欄：部材毎の健全性の診断区分

部材毎の健全性の診断区分を選択する。区分は、B F 欄“健全度区分”を参照する。

B L 欄：廃止理由

道路標識を撤去廃止した理由を記入する。

例)「老朽化により更新」、「事故により更新」、「単純撤去」、「錯誤」、「表示内容の変更に
より更新」等を記入する。

B M欄：備考 1

その他、補足説明等が必要な場合に記入する。

B N欄：備考 2

その他、補足説明等が必要な場合に記入する。

B O欄：備考 3

その他、補足説明等が必要な場合に記入する。

※本マニュアルに記載のないこと、その他疑義が生じた場合は、土木事務所担当者（監督員）と協議すること。

4. 提出データのファイル名、フォルダ構成等について

(1) 新設・引継・更新の場合（固有 ID が無いケース）

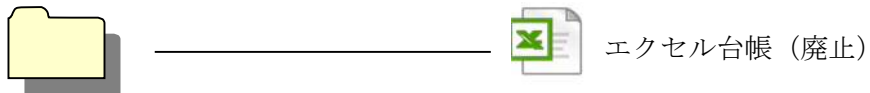


※各ファイルの項目は必ず「_」（アンダーバー）で区切ること。

日付は yyyyymmdd 形式（西暦で8桁表示）とし、Excel台帳「B 欄」と合わせること。

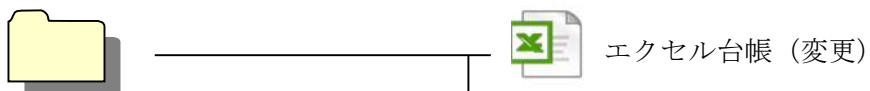
写真が複数ある場合にはファイル名の最後にファイル名+_通し番号を振ること。

(2) 廃止の場合（固有 ID が有るケース）



廃止_施設名_区番号_提出日
(例：廃止_道路標識_01_20140401)

(3) 修繕・移設・錯誤・点検の場合（固有 ID が有るケース）



変更_施設名_区番号_提出日
(例：変更_道路標識_01_20140401)



※各ファイルの項目は必ず「_」（アンダーバー）で区切ること。

日付は yyyyymmdd 形式（西暦で 8 桁表示）とし、Excel 台帳「B 欄」と合わせること。

写真が複数ある場合にはファイル名の最後にファイル名+_通し番号を振ること。

5. エクセル台帳の記載項目

入力が必要な項目 ◎必須、○該当する項目があれば必須

△必要に応じて記入（既存データに誤りがある場合や空欄の場合等）

－入力不要（空欄にしておく項目）

項 目	新設	引継	更新	廃止	変更			
					修繕	移設	錯誤	点検
A 補正区分	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B 年月日	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
C 固有 ID	－	－	－	◎	◎	◎	◎	◎
D 土木事務所	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
E 管理番号	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
F 全景写真	○	○	○	－	△	△	△	△
G 標識種類1	◎	◎	◎	－	△	△	△	△
H 標識番号1	◎	◎	◎	－	△	△	△	△
I 標識板の枚数1	◎	◎	◎	－	△	△	△	△
J 標識種類2	○	○	○	－	△	△	△	△
K 標識番号2	○	○	○	－	△	△	△	△
L 標識板の枚数2	○	○	○	－	△	△	△	△
M 標識種類3	○	○	○	－	△	△	△	△
N 標識番号3	○	○	○	－	△	△	△	△
O 標識板の枚数3	○	○	○	－	△	△	△	△
P 設置年月日	◎	◎	◎	－	△	△	△	△
Q 設置者	◎	◎	◎	－	△	△	△	△
R 設置方式	◎	◎	◎	－	△	△	△	△
S 設置形式	◎	◎	◎	－	△	△	△	△
T 添架対象	○	○	○	－	△	△	△	△
U 道路種別	◎	◎	◎	－	△	△	△	△
V 路線名	◎	◎	◎	－	△	△	△	△
W 道路番号	◎	◎	◎	－	△	△	△	△
X 幅員	◎	◎	◎	－	△	△	△	△
Y 緊急輸送道路	◎	◎	◎	－	△	△	△	△
Z 設置場所	◎	◎	◎	－	△	△	△	△
AA 設置位置	◎	◎	◎	－	△	△	△	△
AB 路面からのクリアランス	◎	◎	◎	－	△	△	△	△
AC 標識寸法	◎	◎	◎	－	△	△	△	△
AD 文字高さ	○	○	○	－	△	△	△	△
AE 英語表記	◎	◎	◎	－	△	△	△	△

項 目		新設	引継	更新	廃止	変更				
						修繕	移設	錯誤	点検	
AF	拡大率		○	○	○	－	△	△	△	△
AG	板の材質		◎	◎	◎	－	△	△	△	△
AH	反射シート		◎	◎	◎	－	△	△	△	△
AI	基礎形式		○	○	○	－	△	△	△	△
AJ	基礎寸法		○	○	○	－	△	△	△	△
AK	支柱形式		○	○	○	－	△	△	△	△
AL	支柱寸法		○	○	○	－	△	△	△	△
AM	支柱の材質		○	○	○	－	△	△	△	△
AN	支柱の表面処理		○	○	○	－	○	△	△	△
AO	緯度		◎	◎	◎	－	△	◎	△	△
AP	経度		◎	◎	◎	－	△	◎	△	△
AQ	地際部種別		○	○	○	－	○	○	△	△
AR	占用物件		○	○	○	－	○	○	△	△
AS	点検年月日		－	○	－	－	○	△	△	◎
AT	点検種別		－	○	－	－	○	△	△	◎
AU	点検要領		－	○	－	－	○	△	△	◎
AV	業務件名		－	○	－	－	○	△	△	◎
AW	点検者名		－	○	－	－	○	△	△	◎
AX	修繕年月日		－	－	－	－	◎	△	△	－
AY	修繕内容		－	－	－	－	◎	△	△	－
AZ	塗装面積		－	－	－	－	○	△	△	－
BA	塗装色		－	－	－	－	○	△	△	－
BB	貼紙防止塗装面積		－	－	－	－	○	△	△	－
BC	工事費		◎	◎	◎	－	◎	◎	△	－
BD	工事件名		◎	◎	◎	－	◎	◎	△	－
BE	施工者名		◎	◎	◎	－	◎	◎	△	－
BF	健全度区分		－	○	－	－	◎	△	△	◎
BG	部材毎の健全性の 診断区分	支柱	－	○	－	－	○	△	△	○
BH		横梁	－	○	－	－	○	△	△	○
BI		標識板	－	○	－	－	○	△	△	○
BJ		基礎	－	○	－	－	○	△	△	○
BK		その他	－	○	－	－	○	△	△	○
BL	廃止理由		－	－	－	◎	－	－	－	－
BM	備考1		△	△	△	△	△	△	△	△
BN	備考2		△	△	△	△	△	△	△	△
BO	備考3		△	△	△	△	△	△	△	△

6. 参考資料

(1) 点検・措置記録表（参考様式）

基本情報等

施設名・形式	管理番号	路線名	所在地	設置位置	緯度	43° 10' 20"
					経度	141° 32' 12"
道路情報提供装置 門型式	〇〇〇〇	県道〇〇号 △△△線	〇〇県△△△市□□□町1-2-3			
管理者名		点検実施年月日	2014年 〇月 〇日	点検員	〇〇〇〇(株)	〇〇 〇〇
〇〇県 △△△土木事務所		調査実施年月日	— — —	調査員※1	—	—
代替路の有無	緊急輸送道路	自専道or一般道	占用物件(名称)			
有	二次	一般道	—			

部材単位の健全性の診断(部材毎に最も悪い判定区分を記入)

点検時に記録				措置後に記録		
部材等	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等 が分かるように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
支柱	Ⅰ					
横梁	Ⅳ	腐食	写真1	Ⅱ	腐食	2014年 △月 △日
標識板または道路情報板	Ⅰ					
基礎	Ⅰ					
その他	Ⅲ	腐食	写真2、3	Ⅰ		2014年 △月 △日

門型標識等毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅳ	腐食・孔食が広範囲に進展しているため、緊急に措置が必要	Ⅱ	2014年 □月 □日

全景写真

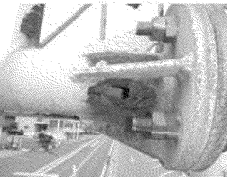
設置年月※2	道路幅員(m)	起点側	
1984年 〇月	8.5		

※1：調査員は、非破壊検査(板厚調査、き裂調査等)を実施した請負者等を記入する。

※2：架設年次が不明の場合は「不明」と記入とする。

状況写真(損傷状況)

施設名 (形式)	道路情報提供装置 (門型式)	管理 番号	〇〇〇〇	路線名	県道〇〇号 △△△線	点検員	〇〇〇〇(株) 〇〇 〇〇	点検年月日	2014年 〇月 〇日
				管理者名	〇〇県 △△△土木事務所	調査員	—		

写真番号		写真1		
部材名		横梁 横梁本体		
変状の種類		腐食		
健全性の診断	点検時 (調査時)	Ⅳ		
	措置後	Ⅱ		
調査(方針)		—	調査年月日	—
措置(方針)		横梁の補強		措置年月日 2014年 △月 △日
備考欄				

写真番号		写真2, 3		 
部材名		その他 管理用の足場		
変状の種類		腐食		
健全性の診断	点検時 (調査時)	Ⅲ		
	措置後	Ⅰ		
調査(方針)		—	調査年月日	—
措置(方針)		管理用の足場の取替(更新)		措置年月日 2014年 △月 △日
備考欄				

写真番号	写真			写真番号	写真		
部材名				部材名			
変状の種類				変状の種類			
健全性の診断				健全性の診断			
調査(方針)		調査年月日		調査(方針)		調査年月日	
措置(方針)		措置年月日		措置(方針)		措置年月日	
備考欄				備考欄			

○部材単位の健全性の診断(判定区分)が、Ⅱ、Ⅲ又はⅣの部材について記載する。なお、同一部材で、変状の種類が異なる損傷がある場合は、変状の種類毎に記載する。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

(2) 道路標識調書 (=紙台帳) (参考様式)

道 路 標 識 調 書									
設置場所	路 線 名	線	道路番号		管 理	1. 案 内	2. 警 戒		
	(交差路線名)		(交差路線名)		番 号	3. 規 制	4. その他		
	場 所	区 地内			標識番号				
	区 分	路肩・歩道・中央帯			上り・下り				
	備 考								
設 置 者	道路管理者・道路管理者以外 ()				構造図 (全体・基礎)				
設置方法	単 独	単独・オーバーハング・オーバーヘッド							
	添 架	歩道橋・照明灯・道路情報板・信号機・電柱・その他 ()							
	共 架								
車道幅員	m		路肩・歩道幅員		車道からのクリアランス			m	
標識寸法	(H)	(W) m×	m	文 字 高 さ	漢字	cm	ローマ字	cm	拡 大 率
板の材質				反射シート				照 明	内照・外照・なし
基 礎	形 式		寸 法		標 識 歴	新設年月日			
支 柱	形 式		寸 法			請負人名			
柱の材質						更新年月日			
						請負人名			
						更新年月日			
					請負人名				

※設置箇所備考欄には、交差点付近に設置する場合に「〇〇交差点手前〇〇m」と記入すること。
また、警戒標識には、「屈曲地点手前〇〇m」と記入すること。

(日本工業規格 A4)

設 置 個 所 ・ 位 置 図	写 真 (表 面)
レイアウト図	
	写 真 (裏 面)